

がむしゃら~ONE TEAM~

令和6年5月2日 発行 文責



城西中1年生全員の学力アップを目指して

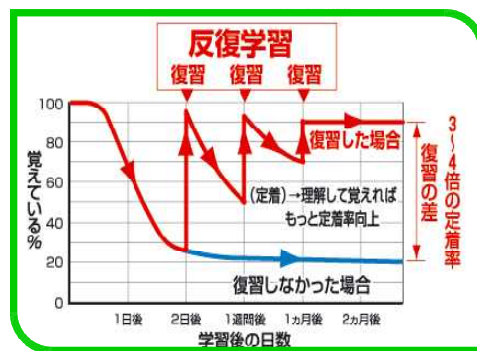
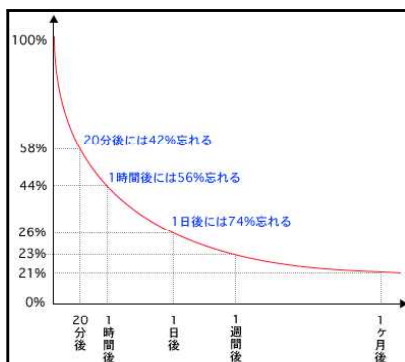
学校生活を送っていて一番長く過ごす時間は、授業で学習している時間です。1年生の時に勉強がわからなくなってしまうと、毎日5・6時間ある授業を受けるのが辛くなってしまいます。その結果、登校意欲が落ちてしまうかもしれません。「自分自身の夢を実現するには、『勉強』を頑張らなければいけない。」このことを、生徒達はわかっています。でも、「家庭学習の仕方がわからない」「学習の仕方を詳しく教えてほしい」「学習の仕方が正しいのかわからない」「今まで勉強しても、なかなかテストの点数が上がらなかった」等の声が、教室で聞かれることがありました。保護者の皆様からも、授業参観の時に、「どのように学習させていくか悩んでいます。」という声を聞きました。

そこで、城西中の1年生全員が、学習する理由を理解し、効率よく学習に取り組み成果を上げ、一人一人の夢が実現できるように、「家庭学習の手引き」を作りました。各教科の先生が吟味し、検討に検討を重ねて、作成しましたので、詳しく記述されています。生徒それぞれに到達度の違いがあると思うので、自分の到達度に合った学習ができるように、各教科レベル1～レベル5までの学習法をまとめました。この「家庭学習の手引き」を活用して、納得のいく進路選択につなげていきます。

中学校生活の3年間はあっという間です。1年生の現時点から自分の進路選択に向けて学習に取り組んでいくことが大切です。そんな思いから、学習に取り組む手助けとなればと考え、学年スタッフで「家庭学習の手引き」を作成しました。家庭学習ノートに貼付してありますので、お子様と一緒に確認しながら家庭学習を見守って下さい。よろしくお願いたします。また、教科書類を学校に保管しておりますが、その日に家庭学習に取り組む教科の教科書・ワークを、ご家庭に持ち帰るように指導しています。

第1学年主任

どうして家庭学習が大切なのか？



理科 授業の取り組み方

授業前... 次の時間に学習する授業を教科書で確認する。実験操作がある場合、どのような操作が必要かをよく読んでイメージしておく。実験の準備がスムーズにできます。(結果やまとめまで読んでしまおうと授業への意欲が湧くので注意！)

授業中... 授業に積極的に参加する。その際、学習課題に対して『どうしてかな』『どうなるのかな』という素朴な疑問を大切にしてください。

授業後... 理科の学習は復習が中心です。記憶が鮮明な『その日のうち』に、『どのような学習課題で』『新たに何が分かったのか』を復習する。ワークなどの問題を解くことで理解が深まり効果的。

家庭学習の仕方

レベル1 ・授業ノートやプリントを、『その日のうち』もう一度読み、書き直す。
※書き直しは必ず自分で、自分のペースで、自分の理解した範囲で書き直します。一分がらないうちで済ませることが大切です。

レベル2 ・まとめノートをつくる。
※書き直したノートに、自分の気づきや疑問点を記入し、自分の学習の軌跡を書き加えます。
※ノートには、お母さまの要点がまとめられています。教科書を読みながら、自分なりに大切に思うところを自分の言葉でまとめ加えてください。

レベル3 ・まとめノートを読み返し、頭の中に入れておく。練習問題(教科書の章末問題、单元末問題やワークの問題)を解いてみる。
※問題を解く前は問題をよく読んでおくべきです。問題を解きながら疑問点を見つけておく。こうすることで自分の学習の進捗具合がわかります。書き加えたり訂正したりは構いません。

レベル4 ・レベル3で解けなかった問題について、記憶不足であれば覚え直します。まとめノートにまとめられていない内容があれば、その内容についてさらに自分で調べてノートにまとめ直し(付け加え)をする。
※ここからは真にレベル4です。しかしこのレベル以上をクリアしていくと、理科の学力が格段に上がります。

レベル5 ・まとめノートを自分の教科書と比べるとさらに深く、自分でテストの予想問題をづくり、解いてみる。
※自分の理解は、必ずワークやテストのものと一致させるべきです。単元問題、单元末問題、ワーク、過去問や新習題など、数多くの問題を当たって、『何が問われるか』がわかります。これもまた自分でテスト予想問題を自作できるように努力してください。結果として自分の学習の進捗具合がわかります。

どうして1度学校で学習した内容を、再び家庭学習で取り組まなければならないのでしょうか。この疑問は誰もがもちます。1回習ったのだから覚えているのが当然だと考えるのが普通です。でも、テストを受けると覚えているはずの内容が意外と忘れていくことに気がきます。この記憶の忘却(忘れていくこと)の研究を行った人がいます。ドイツの心理学者ヘルマン・エビングハウスという学者です。ヘルマン・エビングハウスが発表したものに、上に示すような「エビングハウスの忘却曲線」というグラフがあります。「エビングハウスの忘却曲線」の内容は次のようになっています。

- 人間の記憶は
- 20分後には、42%を忘却し、58%を覚えていた。
 - 1時間後には、56%を忘却し、44%を覚えていた。
 - 1日後には、74%を忘却し、26%を覚えていた。
 - 1週間後には、77%を忘却し、23%を覚えていた。
 - 1ヶ月後には、79%を忘却し、21%を覚えていた。となるそうです。

つまり、左上に示した「エビングハウスの忘却曲線」によると、最初の24時間で、覚えたはずの大部分の内容を忘れてしまうということです。そして、最初の24時間を何もしないまま過ごしてしまうと、その後、覚えている内容はわずかであるということです。だから、学習したことは、その日のうちに復習することが大切になってくるのです。記憶の忘却については、記憶した瞬間から急激に忘却が進み、しかしその後、時間が経つにしたがって緩やかに忘却が進んでいることがわかります。忘却を防止する手段として最も有効なのが、復習を行うことなのです。上に示すグラフのように、急激に忘却が進む期間(学習後1週間まで)では、短い間隔で復習を行い、緩やかに忘却が進む期間(学習後1週間以上経過)に移るにしたがって、復習の間隔を伸ばしていくようにします。こうすることによって復習による記憶の回復を行いながら、忘却曲線が緩くなる期間まで繰り返し、長期間記憶に定着させることができるのです。このことにより、1度学習した内容を自分の記憶としてとどめておくためには、毎日の家庭学習で、繰り返し、繰り返し学習することが大切なのです。よって1年生の時に真剣に家庭学習に取り組んでおくと、そのことが高校受験の時に生かされていくこととなります。時間は限られています。家庭学習の大切さを理解して毎日の積み重ねを大切にしていきたいです。